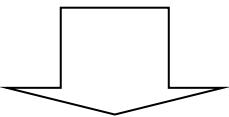


令和3年度授業改善推進プラン

教科 [家庭] 科

学習状況の実態・調査結果等を踏まえた内容別・観点別分析表

1年	2年	3年
<ul style="list-style-type: none"> 授業への関心・意欲は高く、ほとんどの生徒は積極的に取り組んでいる。実習の作業に対する関心や安全性などへの意識も高い。 速さを重視して作業が粗雑になる生徒がいる。 基本的な知識を実生活で生かせるようにする必要がある。 実習中に自分が行うべき作業が分からなくなる生徒がいる。周囲の生徒が補助している。 説明プリントなどを見て自分で考えて作業に取り組むことができない生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業への関心・意欲は高く、積極的に取り組んでいる。 授業での発言は多いが、クラスによっては私語が多い。 授業を通して身に付けた知識や技術を、実生活で役立てることが十分にできていない。 説明プリントなどを見て自分で考えて作業に取り組むことができない生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ほとんどの生徒が落ち着いて授業に取り組んでいる。忘れ物が多い生徒が集中して取り組めない現状がある。 授業を通して身に付けた知識や技術を、実生活で役立てることが十分にできていない。



指導方法の課題分析と具体的な授業改善及び補充指導の計画

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策
1年	<ul style="list-style-type: none"> 食品の栄養や特質などの学習を苦手とする傾向があるが、シールを使うなど教材の工夫によって、興味を引き出し進める必要がある。 実習の安全性、衛生面での意識を高め続けさせていく必要がある。 小学校・中学校を通して学んだ基礎的な知識や技術を実習に活用し、ほとんどの生徒は作業に丁寧に取り組んでいるが、生徒によっては個別に呼んで指導していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の関心が高い実習の中で、用いる食品の栄養素やそのはたらきなどを繰り返し扱い、基本的な栄養知識の定着を図る。 実習の中で安全性・衛生面を繰り返し確認し、学習内容を復習しながら進める。 実習での作業内容を伝えておき、実習中作業がうまく進められない生徒には個別に指導する。 学習形態を工夫し、協力・教え合う態度を育てる。 丁寧な作業の重要性を伝える機会を設ける。
2年	<ul style="list-style-type: none"> 実習や授業の内容を理解していても、それを応用して課題を解決する力が不足している生徒がいるので、励まし声かけしながら進める必要がある。 実習だけではなく、それに関連する知識も身に付けさせることが必要である。 授業への関心・意欲は高いが、人前で自分の考えを発表するのが苦手な生徒がいる。活字から受ける意欲的な部分を励まし、意欲を引き出す必要がある。 実習時、製作に集中できない生徒がクラスによって少數いるが、毎時間の目標設定の確認をしっかり伝えていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 実習ではできるだけ少人数のグループにし、全員が全ての作業工程に携われるようにして、作業の段取りの重要性を理解させるとともに、一人一人の技術の向上を図る。 実習の授業とともに、その内容を振り返る授業も組み合わせて指導する。 基礎基本の定着を図るために、個別対応を心掛ける。 積極的に発言する、自分の考えを表現する姿勢をつくれるような雰囲気作りをしていく。（積極性が認められる生徒を褒めるなど）
3年	<ul style="list-style-type: none"> 実習や授業の内容を理解していても、実生活に生かされていない生徒がいる。頑張ったところをきめ細やかに認め励まし意欲を引き出す必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 実生活に関わりのある教材を提示し、家庭での実践意欲をもたせる。 グループ学習などを通して、自分の意見を他の人に伝えたり、それを聞き合ったりする機会を設ける。 学習に集中できるような教材の工夫をする。